**集録原稿の作成方法**

1. 集録原稿

集録原稿は、富山県看護協会ホームページよりダウンロードし作成する。

演題・key words・所属施設名・発表者名・共同研究者名を記載する。

集録として、そのまま印刷(白黒)されるため、明瞭なものとする。

2. 集録原稿の枚数・文字数

A4サイズ 横書き(富山県看護協会ホームページよりダウンロード)3枚程度、文字数は、6,400字程度(本文・引用文献・

図表等、スペースを含む)、図表等は3点以内とする。

3. 集録原稿の様式

1) 様式・文字サイズ

A4サイズ　横書き(富山県看護協会ホームページよりダウンロード)

演題：文字サイズ14ポイント・太字、1段組み、中央揃え

サブタイトル：文字サイズ12ポイント・太字、1段組み、中央揃え

Key words：文字サイズ10ポイント、1段組み、中央揃え

所属施設名・発表者名(○をつける)・共同研究者名：文字サイズ10ポイント、1段組み、段組右側の左揃え

本文：文字サイズ10.5ポイント、2段組み(1枚目：23字×40行程度)(2枚目以降：23字×50行程度)

2) 文字の種類

和文・新かなづかいを用い、外国語はカタカナ表記、外国人名や日本語訳が定着していない学術用語等は原語にて

表記する。

和文フォントはＭＳ明朝体で全角、英文および算用・アラビア数字、単位記号は半角とする。

＜1枚目＞　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　＜2枚目＞

　　　　20ｍｍ

　　　　　　30ｍｍ

**演題名**

**～ｻﾌﾞﾀｲﾄﾙ～**

Key words：〇〇〇，〇〇〇

　　　　　　　　　病院名

　　　　　　　　　〇氏名

23文字×50行

程度

23文字×50行

程度

15ｍｍ

10ｍｍ

10ｍｍ

15ｍｍ

15ｍｍ

15ｍｍ

23文字×40行程度

23文字×40行程度

4. 原稿執筆要領

1) 演題

演題は、簡潔明瞭に論文内容を表すものとする。

2) key words

論文内容を表す重要な語句を3～5個記入する。演題の下に1行開けずに入力する。

3) 本文の項目

本文は「Ⅰ．序論」「Ⅱ．目的」「Ⅲ．方法」「Ⅳ．倫理的配慮」「Ⅴ．結果」「Ⅵ．考察」「Ⅶ．結論」「引用

文献」の項目別にまとめ、各項目にはローマ数字で番号をつける。また「Ⅰ．序論」では、先行文献を検討した旨

を記載する。用語の定義は「Ⅲ．方法」に入れる。

4) 本文の見出し符号　※行頭は左揃えで統一する

見出し符号は、次の順に用いる。

Ⅰ Ⅱ Ⅲ･･･、1　2　3･･･、1)2)3)･･･、(1)(2)(3)･･･、①②③･･･

大見出し符号(Ⅰ Ⅱ Ⅲ･･･)の前行は1行あける。

5) 図表等

(1) 図表等は、該当する本文中に(　)で記載する。

<例>　○○である(表1)。

(2) 図表等は、本文、引用文献の後、一括して掲載サイズで挿入する(文中には入れない)。

(3) それぞれ通し番号・タイトルをつける。

番号・タイトルの位置について、図は下、表は上に入れ、中央揃えにする。

(4) 白黒印刷で判別できる明瞭なものとする(カラー原稿は受付けない)。

6) 引用文献

(1) 引用文献は、引用順に本文の引用箇所の肩に１）２）と番号をつけ、本文の最後に一括して引用番号順に記載する。

<例> 清瀬１）は「○○○」と述べている。

(2) 引用文献は、次のように記載する。

【雑誌掲載論文】 著者名：表題名，雑誌名，巻(号)，頁，発行年(西暦年次)．

<例> 学会花子：看護研究の○○○について，○○看護，25(11)，p.35-38，2008．

<例> 学会花子，日本協子，清瀬看子，他：看護の研究，第○回日本看護学会論文集(看護 管理)，p.5-8，20△

【単行本】 著者名：書名(版)，発行所，頁，発行年(西暦年次)．

<例> 学会花子：看護実践研究の手引き(3)，○○看護出版，p.145-148，2006．

著者名：表題名，編者名，書名(版),発行所，頁，発行年(西暦年次)．

<例> 学会花子：研究における○○，日本協子編，看護実践研究(2)，△△出版，p.76-88，2007．

【翻訳書】 原著者名：書名(版)，発行年，訳者名，書名(版)，発行所，頁，発行年(西暦年次)．

<例> Alice Williams：Nursing Research(4)，2001，学会花子訳，看護研究(4)，○○看護出版， p.280-298，2003．

【電子文献】 著者名：表題名，雑誌名，巻(号)，頁，発行年(西暦年次) ，アクセス年月日，URL，発行機関名

(調査/発行年次)，表題，アクセス年月日，URL．

<例>文部科学省，厚生労働省(2014)，人を対象とする医学系研究に関する倫理指針，2015年4 月10日閲覧，

http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10600000-Daijinkanboukouseikagakuka/0000069410.pdf.

※公的機関から提供される情報(統計、法令等)、電子ジャーナルのみを対象とする。

(3) 共著者は3名まで表記し、それ以外は他とする。

 (4) 同じ文献から複数回引用する場合は1),2)とナンバリングする。2回目以降は前掲書として記載する。

<例> 1) 学会花子：看護研究の○○○について，○○看護，25(11)，p.35-38，2008．

2) 前掲書1)，p.100-115．

5. 倫理的配慮とその記述方法

1) 研究における倫理的配慮

研究倫理について、以下の指針等を読み、研究における倫理的配慮を十分に行う。

●人を対象とする医学系研究の倫理指針(文部科学省・厚生労働省　2014年)(一部改正　2017年)

http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10600000-Daijinkanboukouseikagakuka/0000153339.pdf

●「看護研究における倫理指針」(日本看護協会　2004年）

https://direct.nurse.or.jp/jna\_system/JNA\_ninsyou.asp

2) 研究対象者への研究内容および研究結果の公表等の説明、承諾

研究対象者に研究目的・内容を説明し、研究への参加が自由意思によって承諾・拒否ができるよう配慮すること

が必要である(特に、小児、精神的・感情的に障害がある人、身体的に障害がある人、妊婦、学生など)。

研究対象者への研究内容および研究結果の公表等の説明と承諾について、どのように行ったか具体的に記載する。

3) 研究対象者が特定できない配慮

研究対象者が特定できないように配慮し、記載する。固有名詞(例：当院、イニシャル)は使用しない。年月日、年

齢の記載は、記載の仕方を配慮する。<例> 第10病日、40歳代。写真等は、研究結果を示すために必要な場合の

みとし、承諾を得ていることを記載し、個人が特定されない掲載方法とする。研究対象者の個人情報について、研

究結果に必要な情報のみ記載する(例：家族構成・関係、職業、学歴、経済状況)。

4) 研究参加による不利益や負担への配慮

研究参加によって、研究参加者への不利益や負担が生じないよう配慮したことを記載する。

5) 倫理委員会等での倫理審査および承認

研究に際し、倫理委員会等での倫理審査を受け、承認を得ていることが必要である。所属施設の倫理委員会等で承

認を得たことを記載する。文末に承認番号を記載する。<例> 看護倫理委員会の承認を得た(承認番号001)。

6) 著作権の配慮

文献から本文を引用する場合、引用箇所を明らかにし、引用文献を記載する。

例（利益相反のない場合）

演題発表に関連し、開示すべきＣＯＩ関係にある企業等はありません。

既存の尺度等の使用について、必要な許諾を開発者から得、出典(引用文献)を記載する。

　　 薬品や検査器具等は、原則、一般名称を用いる。登録商標の場合、を記載する。

7) 利益相反（ＣＯＩ）の記載

利益相反については、倫理的配慮に記載する。

※利益相反とは、企業、組織、団体等との共同研究により得る利益には、学術的、倫理的責任を果たすことによって得られる

成果の社会への還元(公的利益)と企業等の連携に伴い研究者個人が取得する金銭、地位、利権等(私的利益)がある。これら

の2つの利益が研究者個人の中に生じる状態を「利益相反」という。